



第6回再生利用WGでの指摘事項と対応方針案

2024年 9月17日

環境省環境再生・資源循環局

中間貯蔵施設における除去土壌等の再生利用方策検討WG(第7回)

中間貯蔵施設における除去土壌等の減容化技術等検討WG(第7回)

除去土壌の処分に関する検討チーム会合(第10回)

合同会議

第6回再生利用WGでの指摘事項と対応方針案

	委員の指摘事項	対応方針案
1	方策④で「立地場所」という表現があるが、例えば道路に使う場合、起点と終点が結ばれなければ機能しないので、「立地」というよりは、「利用」などの表現の方が適切ではないか。	ご指摘のとおり反映しました。
2	方策⑦覆土等の覆いについて、安全性の観点から数値が明示されるものと、関係者との協議によって使用性の観点から決まる要求性能的なものがあると思う。今後、ガイドライン等を作成する際には、層Aと層Bを単に並列するのではなく、違いが分かるよう整理してもらいたい。	今後、整理する際に留意します。
3	方策⑩の放射能濃度測定方法について、調査ごとに10以上の試料採取とされているが、均一性が保たれそうなものについては4試料とされていると理解しているので、土壌は4試料でも良いのではないか。	ご指摘を踏まえて、汚泥や灰と同様に除去ど土壌も均一性が保たれることから、4以上の試料採取とさせていただきたい。
4	方策⑩の放射能濃度測定方法における調査単位について、性状がおおむね同一であると推定される単位となっている。試料採取の数よりも調査単位の決め方が重要になるのではないか。	基準・ガイドラインのわかりやすい説明に向けて、調査ごとの試料数を踏まえて、引き続き検討を進めます。
5	方策⑩の放射能濃度測定方法について、連続測定の可能性がなくならないよう、取りまとめに当たって留意してもらいたい。	ご指摘を踏まえて、放射能濃度を連続して測定することのできる方法も用いることができることとさせていただきたい。

第6回再生利用WGでの指摘事項と対応方針案(続き)

	委員の指摘事項	対応方針案
7	方策⑪の環境安全性等について、利用用途によって要求品質、ら利用先において環境規制と読み取れなくもないので、誤解のないよう、「利用用途や利用先に応じて」などとすべきではないか。	ご指摘のとおり修正しました。
8	18方策についてまとめられた表について、除去土壌の放射線安全性や適切な施工・維持管理に向けての連携手法など、各段階へまたがるものがある。これまでの議論を踏まえて更新してもらいたい。	ご指摘のとおり更新しました。
9	道路盛土実証事業での施工手順は、線量低減の最適化の事例になるのではないかと思う。一方で、異なる施工方法を採用した場合との違いを示すとより良いのではないか。	基準・ガイドラインのわかりやすい説明に向けて、引き続き安全評価計算による検討を進めます。